

後記

『東洋大学百年史』編纂の経過と変遷は、詳しくは「通史編Ⅱ」の「後記」に記されたとおりであるが、そのなかの「部局史編」は、平成二年七月に年史編纂に関する一切の業務が、新設の「井上円了記念学術センター」に移管され、新たに編成された「東洋大学創立百年史編纂委員会」が新「編集会議」の「年史の構成を『通史編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』から『通史編Ⅰ・Ⅱ』と『部局史編』とに分ける」という提案を承認した段階から、具体的な作業に入った。

部局史については、すでに前編纂委員会で承認された「作成要綱」「目次案」、また「部局史部会」による部会決定の「執筆要項案」があり、センターはこれを引き継いだ。「執筆要項案」には学校法人東洋大学の現行区分に従って頁数の割り当てが記載され、一冊一〇〇〇頁の予定となっているが、その内容は必ずしも明らかかな形をとっていないかった。新しい「編集会議」は『東洋大学百年史』を編纂された寺崎昌男、中野 実両氏の経験や、廣畑一雄、西村 誠本学両教授の教育学の専門的な立場からの示唆を受けながら、前記の引き継ぎ案に若干の修正を加えて具体化し、「通史編」に対する「部局史編」の特徴をもたせるため、次のような編集方針を決定した。

1 時代区分としては、新制大学以降「東洋大学創立百周年」まで（昭和二四～六二年）を対象とするが、各部局の事情により、記述の必要上この前後にわたることも認めること。

2 各部局の記述内容に関し編集部は加筆訂正等はしない。ただし原則として、年号表記、記号類の統一や「現代表記法」に準じた表記に近づけるように、訂正することがあること。

また、この方針に基づき、編集会議委員と「部局史編」担当編集員が、次のような経過で作業を進めた。

- 1 資料整理・資料一覧作成 平成二年二月～同三年六月
- 2 執筆者選定依頼 平成三年六月以降各部局に、また事務局には総務部経由で各部に依頼
- 3 編纂委員会の承認 平成三年七月一八日の第一回東洋大学創立百年史編纂委員会において諸事項承認
- 4 打ち合せ 平成三年七月から一二月にかけて、編集会議委員と部局史編編集員が執筆者に個別あるいは部局単位に、執筆要項にもとづいた執筆の打ち合せ

5 原稿締切日 平成四年一月一〇日を原稿締切日としたが、提出のあった部局は一割に満たず、改めて同年九月一五日まで延期。さらに同年一二月四日第二回編纂委員会において平成五年一月一日を最終締切日とし、未提出部局の無掲載を決定するまでに至ったが、平成五年四月一五日をもって、最終的には全部局の原稿が出揃った。この編集に当たって、内容については各部局の責任執筆とし、本文の担当箇所には執筆者名を明記した。編集の側からは原稿に加筆、削除等訂正しないことをその編集方針としていたが、資料的裏づけのない記述や不適当な表現と判断せざるを得ないものについては、編集会議委員と当該部局の執筆担当者とは協議の上、修正した。

「部局史編」の担当は、編集に松本 隆氏、デザインに鈴木 堯氏、校正に松尾幸子氏等が当たった。また、資料調査などの諸作業には多くの学部生の協力を得、ことに印刷所の株式会社フクインには全面的な協力をいただいた。最後に、資料不足という難問を抱えながら担当してくださった各部局の執筆者、貴重な資料を提供いただいた学内外の諸機関ならびに関係諸氏に、心から感謝を申し上げる次第である。

平成五年五月